

伯刺西爾時報

NOTÍCIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Fagundes N. 16
Caixa Postal H
Tele. Central, 5698
S. Paulo, Brazil
Proprietário e editor
Seisaku Kuroishi
Assignaturas
por Anno 18000
Semestre 9000
Mex 18000
Semana 5000

一九一一年にはトピアス・ミカエル
及びアルフレード・ヘルマン・フリー
ド、一九一二年は米國上院議員エリ
ー・ルート、一九二三年には白耳
議上院議員ヘンリー・ラフォンタン
一九一四年から一九一六年迄は受賞
者が無く、一九一七年はジエチの
ノーベル賞が受賞された。

此の一舉にありと云ふ大事な皆既

見損う事がなく、直接太陽面を覗く

握つた。でその時の研究の結果の一

つとして、次のやうな報告が佛蘭西

の天文學會員に十一月々報で發表さ

れた「此の日蝕が待ち兼ねられてゐ

た事は、既に讀者の了知する通であ

る、無數の天文學者それは全世界を

通じて、一九一九年五月二十九日の

日蝕の觀察を繰返して説明した。そ

の時の結果はアイヌタインの説に對

して、大なる反影をもたらしたもの

であつた。そこで問題は今度も、同

の現象が起るかどうかを確めやう

にそれから本年度の文學、物理、化學

各賞は既にジャンント・ペナベンテ

一年はカール・ジャルマル・ブランチ

議員レオン・ブルジョワ、一九二

二年はカル・クリスチアン・ルウス・ラン

シング及びクリスチアン・ルウス・ラン

ゲが受賞した。

萬國赤十字社、一九一八年は受賞者

なく、一九一九年はウッドロウ・ウ

ィルソン、一九二〇年には佛國上院

議員レオン・ブルジョワ、一九二

一年はカール・ジャルマル・ブランチ

議員レオン・ブルジョワ、一九二

一年はカール・クリスチアン・ルウス・ラン

シング及びクリスチアン・ルウス・ラン

ゲが受賞した。

萬國赤十字社、一九一八年は受賞者

なく、一九一九年はウッドロウ・ウ

ィルソン、一九二〇年には佛國上院

議員レオン・ブルジョワ、一九二

一年はカール・クリスチアン・ルウス・ラン

シング及びクリスチアン・ルウス・ラン

ゲが受賞した。

萬國赤十字社、一九一八年は受賞者

なく、一九一九年はウッドロウ・ウ

◆ 駐米日本新大使
地原外務次官は大使に親任米國駐劄
仰付けられた(東京電報)
中暗殺された(巴里電報)
◆ 波蘭大統領暗殺
最近選舉新就任の波蘭大統領ナラト
ウイツツ氏は十六日美術展覽會見物
殺した犯人青年畫家ニイワドムリを
捕縛した(伯林電報)
◆ 獨逸ご伯國マテ
獨逸一輸入商は伯林駐在伯國商務官
に對し伯國マテを輸入し伯林に販賣
店を設けたいと申出で商務官が伯國
輸出品と同社との仲介人たらん事を
望んでゐる(伯林電報)
◆ 近東會議ご海峽問題
ロウザン會議で英外相カーラン卿は
土國代表に對し海峽問題に就ての聯
合國側の提案を承認せざれば同會議
は終止するのだと最後通牒を渡した
露國のチッチャエリンは聯合國の提案を
たる海峽管理を國際聯盟下に置く件
に大反対で聯盟は實力は全くなく而
も露、獨、米等は之を承認してゐな
いと論じた(ロウザン電報)
◆ 歐洲の對米債務
歐洲の對米債務は約百一億五千五
萬弗其の外に未拂利子が十一億七千
二百二十萬弗に上り債務額の第一は
英、第二は佛、第三は伊である(巴
里電報)
◆ 英國ご伯國產綿
リオの縮花會議出席代表者等は歸英
後引續き將來伯國が英國紡織界に要
する綿の一大供給國たるべきを説いて
て一般の注意を喚起してゐる工業經
業界をして樂觀せしめる伯國農業家
は長い困難を経て後良質の物を産し
得られるのだから辛抱が大事又荷造
によく留意すべきだと説いてゐる
(倫敦電報)
◆ 葡國移民出發
伯國南部州では農業に從事する爲葡

●十ヶ月間 ◇經濟欄◇

サントスの輸出入(下)

前年に比し 輸出增加額 同上増加率

仕向國	輸出增加額	同上増加率
英 米 佛蘭西 諾威 亞爾然丁 白耳義 丁扶 其他諸國	五二、一九〇 一七六、五三 三九、二六 一、二〇〇 八、四〇七 六、七七九 二、七一三 四、四七四	三六七、四% 四五、三% 一一〇、八% 五七、四% 三二、三% 二八、三% 四七、八%

唯だ對西班牙輸出貿易のみは、益々減退の域に陥り、十ヶ月に於て昨年的一千三百十四コントスに對し、本年は僅かに三萬二百三十四コントスに漸く五十三コントスを數ふるのみである。對獨逸輸出も不振で昨年の七萬七千二十三コントスに對し、本年は僅かに三萬二百三十四コントスに對し、和蘭も稍減少して本年は三千八百五十コントスである而して之等主要國への輸出増加は、主として珈琲貿易の改善が因したのである。

次に輸入貿易仕向國別に見るとときは、亞爾然丁、伊太利、葡萄牙よりの輸入に於て稍増加し、其他諸國による輸入は一般に減少した、即ち主なる仕向國別に輸入價額を示せば

仕出國	一九二一年	一九三二年
獨逸	三七、〇五一	三一、五四八
亞爾然丁	五九、五九九	六四、九七四
白耳義	一三七、七四七	七一、五六三
米國	二二、七二三	一七、八八七
佛蘭西	八三、六〇八	七四、九三八
英國	二九、四三〇	三四、一二四
伊太利	八、三〇九	八、六九三
葡萄牙	六〇、六四八	四三、七二六
其他諸國		

サントス港輸入貿易減退の主要なる原因是原綿及び綿製品、鐵鋼原料等及び製品各種器具機械類、ジユンタク及び麻原料、石炭石油、小麥粒の輸入減少に依るので多少増加したものには、化學製品、藥品、毛皮、皮革、加工織品、ジユンタク及び麻糸、鰐、

● 大森林州の乾肉
一千九百十六年より一千九百二十一年迄にマットグロツン州からの出乾肉は次の如くであつた。
数量 一九三六七、四九三キロ
價格 二三、八二五、九三九、六〇〇而して一千九百十八年の輸出額は是大で四千九百七十三コントス六百三十三ミル二百レースに及び一千九二十二年は最少で二千六百十コントス百五十一ミル二百レースに過ぎなかつた。

◆交 通(承前) 帆 影
鐵道に就ては略々以上で盡されてゐる、車道村道等の道路は、本年七月現在於て次の通りである
州設車道 五、五一八、九六〇米空
州設民地道 一、〇三八、八七六米空
聯邦施設民地道 一、八二八、一〇〇米空
州内の鐵道運輸が、比較的の便利ない爲に、生産物の搬立の河川に於けるものが多く、從つて州内河川に船の便はかなりよく發達してゐる。殊にバラナ、イグアツスカ、チグブチンガの諸河の舟運は盛で、バラナ河のボザーダス及びボルテ、メジバハ、ラ、ンジェラ、モンデス会が、各社毎月三往復航を營んで、他の諸川には、ロイド、バナナ河に依る亞爾然丁ナエンセセの汽船が往復してゐる。本州へ輸入するマツト、グロソソの畜產輸送を、便利にし發達せしむる、又政府は同社に一九一七年三月港に於ける一九二〇年及び一九年のものにはバラナ河にある、前者三社其他内外社船が寄港する、今之を以て、グアイラ瀧上流、上バラナ河へ輸送の補助航路を命じた。
本州の貿易港はアントニイナ、ラナグア、グラツウバ、フォード・イグアツスウの四港、此の最後のものはバラナ河にある、前者三社其他内外社船が寄港する、今之を以て、グアイラ瀧上流、上バラナ河へ輸送の補助航路を命じた。
外國船入港數 内國船入港數
港名 集數 一九二〇年 集數 一九二一年
アントニイナ 三六 三三 三三 三〇
バラナグア 二六 三三 三三 三〇
グアイラツカバ 二九 四六四 三三 三三
ホスティカアスウ三 三五七一 一 一
内國船出港數 三、三七二 二〇四
巴拉ナグア 三 二 一
グアイラツカバ 一 一 一
ホスティカアスウ三 三五七一 一 一
内國船出港數 三、三七二 二〇四

バラナ州
知つた振

旅館旭 野口喜平治 コンセレイロ、フルタード街一番 コンデ坂上にて眺望絶佳なる場所

御旅館 旭

○卸小賣其格安に販賣可仕候
○第一等
セボーラ種子
ホーリヨ
シヤトキンタール
定價一キロ卅四ミル
送
カナリヤ種黃色
浪花の梅、頭痛膏、ホルム膏、キズ薬、貴眞膏、モグナ、センブリ
センブリの粉、サフラン、其他名種

◆種子を發賣開始いたしました品切れにならぬ内早速御注文の程願上
◆▲見本御希望者は郵券五百レース封入御照會あれ送る
K. NAKAYA 直輸入商 中矢商店 Rua Conde de Sarzedas, 69 Telephone Central, 6136 S. Paulo

左記諸君の現住所御一報得度候
吉田由次郎 野中重助

◆當社貸付者にして最近他轉し未だ届出なき 諸君はその耕地殖民地名、線名等を詳記し	鈴木勇春成藤吉吾妻林之助	中牟田榮太郎田の上熊五郎大河内増太郎	河村末太郎島田數惠竹田森次郎
小堀長松藤田吉藏上野藤芳			

大正十一年十二月

大統領の奥様

大統領の奥様

□ ○ 生

故國を去つて以來轉々として放浪の生活、言語の解らぬ外國人に交つて慣れた仕事に日々塞れて行く淋しさ

妾はなせこんな所にやつて來たんだらう？ さへは寝臺に横はる夜にな

男の顔はもう眠りに就て夢は何處を巡つてゐることやら、彼の女はたま

らなくシク／＼枕に面を伏せて泣き続けてゐる、静かな夜だ、男は女の

シク／＼泣いてるんだよ、こんな夜更に……

男は斯う呟きながら、クルリと五體を轉して、強いて眼を閉じて、眠らうとしたが、もう目がさへて眠られ

ない。俺はなせこんな所にやつて來たんだう、誰が南米クンダリへ出て行けと言つた？ 誰も行けどは言はなかつた、俺は女に一緒に行かうと言ひ出したんだ、あの時女はイヤだと

言つた、そいつを俺の雄辯が連れて來たんだ、そうあの時の俺は勝手に疑はれて來たんだが、どうして俺はあの當時

似合はぬ亂暴な考へを抱いてゐる……ちと國のお母さんや妻のことも考へて下さい、此上世間から疑はれたら、妾眞實に困つちます。

俺にはルーテルの勇が欠けてゐたんだと彼は故國に在りし當時の出來事に記憶を辿りながらトイとの方を見ると女はまだ泣いてゐる。

「おい、いつまで泣いてゐるんだいと男は怒鳴つた

『なぜ、あなたは妾を瞞してこんな所へ連れて來たの？ 妻はそれを思ふと、もう口惜しくて／＼』

赤ん坊のやうに泣いた泣き出した

『止せよ、小兒じやあるまいし、そんな大きな奴を誰が瞞せるか！』

男は頭を擣げて怒鳴つたもの、

『復た泣き出した

小説 奴隸の娘（四六）

ベルナルド・ギマラエス作

杉山 航影 譯

「旦那様！」

「イサウラ！」

「やさしい聲で呼びかけた。

監督が出て行くと、すぐレオン・シオはイサウラのそばへ行つた。

此處で話は少し後へ戻る、レオン・シオの父親の訃報は、イサウラの問題で三つ巴に争つてゐる真中へ、

裂弾が落ちて破裂したやうなものだつた、然しこの父親の死は、財産は全部レオン・シオの手に入ると共に、幾分かはその本能の發展に、眼の上

彼の友人は同情したが、郷黨は嘲罵した、「彼の母は老の眼に涙を流して彼の不幸を泣いた。」

其の間、彼と彼の女の結婚は其仲間の評判になつてゐた。云ふのは別段彼の名が有名であるからでなく、女の方が「新しら」かつたらだうとしてあはせでした仙人見たやうな男で、あゝした派手な女と一緒になり得たゞらうと――？彼の女に裏切られた男達は彼の結婚を笑つた、男はそれだけ得意であつた、成程、獨身で生涯を社會奉仕に献げやうと言つてゐた女が一朝にして彼の所有となつたのだから。

彼はそうした女と夫婦になつてから、いつの間にか現實當面の社會で遠ざかつて行つた、社會問題や宗教問題の會合に彼の熱辯は聽かれなくなつた、そして遂に彼は自分の雑誌にしてやる爲にだよ！と彼は平氣でこも別れて來たが――なぜ瞞して、こんな所へ連れて來た？――と言ふあゝした泣き言を幾夜も聽かされたが終いには――大統領のセニヨーラにしてやる爲にだよ！と彼は平氣でつたな、と獨り笑つた。

そして大統領のセニヨーラは宜かレオン・シオとマルビーナは、數日間家に籠つて喪に服した、そしてその間はお互ひに鳴を静めて、鳥渡休戦と云つた體。ヘンリケは翌日断然出發すると云つたが、姉のマルビーナの頼みにほだされて、喪中の間だけそばにゐる事を承諾した。

「夫のやりかた次第でね、一緒に妾も行かうわよ、もし二三日の中に、イサウラを解放して、どうとかきまくりをつけなかつたら、もう一つ時も此の家はゐやあしないわ。」

「夫人は弟にかかる云つてゐた。自分の部屋へ入りつきりのレオンシオは、數日の間誰にも顔を見せず、夫婦は弟にかかる云つてゐた。」

彼の不孝を泣いた。

其の間、彼と彼の女の結婚は其仲間の評判になつてゐた。云ふのは別段彼の名が有名であるからでなく、女の方が「新しら」かつたらだうとしてあはせでした仙人見たやうな男で、あゝした派手な女と一緒になり得たゞらうと――？彼の女に裏切られた男達は彼の結婚を笑つた、男はそれだけ得意であつた、成程、獨身で生涯を社會奉仕に献げやうと言つてゐた女が一朝にして彼の所有となつたのだから。

彼はそうした女と夫婦になつてから、いつの間にか現實當面の社會で遠ざかつて行つた、社會問題や宗教問題の會合に彼の熱辯は聽かれなくなつた、そして遂に彼は自分の雑誌にしてやる爲にだよ！と彼は平氣でこも別れて來たが――なぜ瞞して、こんな所へ連れて來た？――と言ふあゝした泣き言を幾夜も聽かされたが終いには――大統領のセニヨーラをしてやる爲にだよ！と彼は平氣でつたな、と獨り笑つた。

そして大統領のセニヨーラは宜か

或る君に捧ぐ　コチャ　與　紫　人

一眼見しよりの君がみ姿

そは忘れんとして忘れ得ざる吾がまほろしの君とはなれり

今迄は斯も非ざりし吾が心乍ら

何故にかくも戀すらん

夜半の眼覺めは淋しこも淋し力なげに

牛はまた牛と鳴きつ。

軒の寒はどりと落つれば思ひは遠く

よしある人の身をば偲ぶも。

怪しくも眼は冴えぬ

夜半の眼覚めは淋しこも淋し力なげに

牛はまた牛と鳴きつ。

金金金金金金金金金金金金
四四四同四五五六六六六六六六
十十十十十十十十十十
三六七九三七ミ一ミ一ミ五八九
ミミミルルルルルルルルルルル
五百

金金金金金金敷金
同七七同七七同八同九同百同百
十十九五七九十五八五八反歩
ミミミルルルルルルルルルルル
五百

金金金金金金百百百百百百
同百同百同百同百同百同百
二十九ミル二十三四五ミル
ミミミルルルルルルルルルル
五百

建築寄附者芳名並金額
大正八年學校敷地
第一小學校
並金額
立毛今前片山中小平西橋井打横本菅良小清加渡橋柄岡桑郷小笠原
石利村田山下村笠田村本手田尾多野永水笠水治邊澤林原原
菊初猪原新彦岩幸
安嘉福原善榮照太佐龜豊太正次太春之幾
三哲姫辰太四武善藤彦
十森常又濟字辨次忠善權重原春義洲倉次仙衛善藤彦
水潤て黄ばみゆく稻眺めつ
西瓜ちければ虫の喰ひ居る
降り相な雲も浮ばす今日も亦
空眺めつゝホツといきする
あゝ、されど淋しく戀しきは
君にも心あらんかなぞ疑ふな
かくて吾は燃ゆる胸押へて
一人淋しく生きて行く(歸耕)
早 魅 セドラル K K

一年間に聖州内で
灰と消えゆく薪の量

先づ早朝のカフェを皮切に、晝と晚と云ふので植林奨励に躍進となり、政府筋へも建言して植林奨励を促し

州が、その臺所で燃す薪と、高い石ツトの苗を、一本十レースで頒布してゐる。又農務部が今迄ユーカリ炭を使はずに走る汽車が、年々灰にしてゐたのを、一舉五十レースに値してゆく薪の量はどの位か

▲聖州山林局長アダルベルト・デケ

る因に山林局から一千九百二十一年

エロス・テエレス博士は語る『聖州

に於ける薪の消費量は、人口の増へると共に、實に驚くほどの數字を以

て増大して行く。先づ鐵道でパウリ

スタ鐵道は一千九百七年には二十九

萬八千立方米突の薪を燃燒したのが

翌年には三十萬に上り、其翌年には三十九萬一千其又翌年には鳥渡減じて官閣のカール・テオドール・ボーダー

▲三十五萬となり、翌一千九百十一

年には三十八萬三千から、六年を過

十七名はパンアメリカン號で昨廿一

年には一千九百十七年には、五

十一萬七千立方米突の薪を燃燒した、

かくて一千九百十七年に、聖州だ

けの鐵道で灰と消えた薪は

▲實に二百九十三萬一千立方米突、

之に各家庭で御飯やカフェに焚いた

量を加へれば、一年優に一千萬立

方十九日同地電報は云つてゐるが之は

十一萬七千立方米突の薪は

かくて一千九百十七年中に、聖州だ

けの鐵道で灰と消えた薪は

▲實に二百九十三萬一千立方米突、

之に各家庭で御飯やカフェに燃燒したのが國民から寄贈の『友誼塔』も到着した

●バイヤへ入港した

●百年祭賛記念塔も

●ヘンリイクス・モウロ・グラン

●ヨーロッパ・モウロ・グラン

●ヨーロッ

Notícias do Brasil

22 de Dezembro de 1922 No. 272

大正二十年十二月廿二日曜日 第二百七十二號

大石内藏之助 牛井桃木

是れ最も憂べきことで、相手は大身の高宗、其の上杉といふ後嗣もあつて見れば、なかく小人數をもつて、本意を達する思ひも寄らぬ。成敗を餘所にして、無二無三に突進み、首を得るも授くるも、唯臣子たる分を盡し、名を全うするといふ心では、拙者事を謀りたうない關東同志の申す處は、上野介老年に付き、若もの事を擧げるに先だら、天壽を畢るに至つては、千萬悔いても及ばぬ次第、且我々同志の中にも、老年の者少からず、一日も早く謀らねば次第に人數も減るど申すが、天壽は天の命するまゝ、所詮人力の及ばぬ意地は立ても、亡君の御靈體はいに、謀拙く、萬一仕損じる事あつては、折角の志も徒らに相成り、銘々を忍び、唯一筋に亡君のお恨みを晴らす所存、然るに關東血氣の輩は天處尙くも大切な、君父の靈を報するの時人の和を待つ、内藏之助が心を知らず、備夫こ嘲り、性者と蔑み動かす時は、力を極めて押壓め、粗忽の舉動なきやうに、心添へ頗る見極め、詳しく内蔵之助は如何程の艱苦も厭はず、暴虎憑河死して悔なきの舉動あるのを、拙者は頗る憂慮致す。足下江戸下向の上は、身に漆しがんを飲ひまでも、篇さ仇家の動靜を窺ひ若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」やうならば、拙者直に駆せ下り及ぶ夫等の虚實も爲と見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」で御座らう、最早其期に及んでは、やうならば、拙者直に駆せ下り及ぶ夫等の虚實も爲と見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」から出た、神崎與五郎は熱心に聞き入る、與五郎のあらん限りは、歩行士の端に列し、常に軍書をもつて奉る、與五郎のあらん限りは、歩行士の端に列し、常に軍書をもつて

是れ最も憂べきことで、相手は大身の高宗、其の上杉といふ後嗣もあつて見れば、なかく小人數をもつて、本意を達する思ひも寄らぬ。成敗を餘所にして、無二無三に突進み、首を得るも授くるも、唯臣子たる分を盡し、名を全うするといふ心では、拙者事を謀りたうない關東同志の申す處は、上野介老年に付き、若もの事を擧げるに先だら、天壽を畢るに至つては、千萬悔いても及ばぬ次第、且我々同志の中にも、老年の者少からず、一日も早く謀らねば次第に人數も減るど申すが、天壽は天の命するまゝ、所詮人力の及ばぬ意地は立ても、亡君の御靈體はいに、謀拙く、萬一仕損じる事あつては、折角の志も徒らに相成り、銘々を忍び、唯一筋に亡君のお恨みを晴らす所存、然るに關東血氣の輩は天處尙くも大切な、君父の靈を報するの時人の和を待つ、内藏之助が心を知らず、備夫こ嘲り、性者と蔑み動かす時は、力を極めて押壓め、粗忽の舉動なきやうに、心添へ頗る見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」やうならば、拙者直に駆せ下り及ぶ夫等の虚實も爲と見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」から出た、神崎與五郎は熱心に聞き入る、與五郎のあらん限りは、歩行士の端に列し、常に軍書をもつて

是れ最も憂べきことで、相手は大身の高宗、其の上杉といふ後嗣もあつて見れば、なかく小人數をもつて、本意を達する思ひも寄らぬ。成敗を餘所にして、無二無三に突進み、首を得るも授くるも、唯臣子たる分を盡し、名を全うするといふ心では、拙者事を謀りたうない關東同志の申す處は、上野介老年に付き、若もの事を擧げるに先だら、天壽を畢るに至つては、千萬悔いても及ばぬ次第、且我々同志の中にも、老年の者少からず、一日も早く謀らねば次第に人數も減るど申すが、天壽は天の命するまゝ、所詮人力の及ばぬ意地は立ても、亡君の御靈體はいに、謀拙く、萬一仕損じる事あつては、折角の志も徒らに相成り、銘々を忍び、唯一筋に亡君のお恨みを晴らす所存、然るに關東血氣の輩は天處尙くも大切な、君父の靈を報するの時人の和を待つ、内藏之助が心を知らず、備夫こ嘲り、性者と蔑み動かす時は、力を極めて押壓め、粗忽の舉動なきやうに、心添へ頗る見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」やうならば、拙者直に駆せ下り及ぶ夫等の虚實も爲と見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」から出た、神崎與五郎は熱心に聞き入る、與五郎のあらん限りは、歩行士の端に列し、常に軍書をもつて

是れ最も憂べきことで、相手は大身の高宗、其の上杉といふ後嗣もあつて見れば、なかく小人數をもつて、本意を達する思ひも寄らぬ。成敗を餘所にして、無二無三に突進み、首を得るも授くるも、唯臣子たる分を盡し、名を全うするといふ心では、拙者事を謀りたうない關東同志の申す處は、上野介老年に付き、若もの事を擧げるに先だら、天壽を畢るに至つては、千萬悔いても及ばぬ次第、且我々同志の中にも、老年の者少からず、一日も早く謀らねば次第に人數も減るど申すが、天壽は天の命するまゝ、所詮人力の及ばぬ意地は立ても、亡君の御靈體はいに、謀拙く、萬一仕損じる事あつては、折角の志も徒らに相成り、銘々を忍び、唯一筋に亡君のお恨みを晴らす所存、然るに關東血氣の輩は天處尙くも大切な、君父の靈を報するの時人の和を待つ、内藏之助が心を知らず、備夫こ嘲り、性者と蔑み動かす時は、力を極めて押壓め、粗忽の舉動なきやうに、心添へ頗る見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」やうならば、拙者直に駆せ下り及ぶ夫等の虚實も爲と見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」から出た、神崎與五郎は熱心に聞き入る、與五郎のあらん限りは、歩行士の端に列し、常に軍書をもつて

是れ最も憂べきことで、相手は大身の高宗、其の上杉といふ後嗣もあつて見れば、なかく小人數をもつて、本意を達する思ひも寄らぬ。成敗を餘所にして、無二無三に突進み、首を得るも授くるも、唯臣子たる分を盡し、名を全うするといふ心では、拙者事を謀りたうない關東同志の申す處は、上野介老年に付き、若もの事を擧げるに先だら、天壽を畢るに至つては、千萬悔いても及ばぬ次第、且我々同志の中にも、老年の者少からず、一日も早く謀らねば次第に人數も減るど申すが、天壽は天の命するまゝ、所詮人力の及ばぬ意地は立ても、亡君の御靈體はいに、謀拙く、萬一仕損じる事あつては、折角の志も徒らに相成り、銘々を忍び、唯一筋に亡君のお恨みを晴らす所存、然るに關東血氣の輩は天處尙くも大切な、君父の靈を報するの時人の和を待つ、内藏之助が心を知らず、備夫こ嘲り、性者と蔑み動かす時は、力を極めて押壓め、粗忽の舉動なきやうに、心添へ頗る見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」やうならば、拙者直に駆せ下り及ぶ夫等の虚實も爲と見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」から出た、神崎與五郎は熱心に聞き入る、與五郎のあらん限りは、歩行士の端に列し、常に軍書をもつて

是れ最も憂べきことで、相手は大身の高宗、其の上杉といふ後嗣もあつて見れば、なかく小人數をもつて、本意を達する思ひも寄らぬ。成敗を餘所にして、無二無三に突進み、首を得るも授くるも、唯臣子たる分を盡し、名を全うするといふ心では、拙者事を謀りたうない關東同志の申す處は、上野介老年に付き、若もの事を擧げるに先だら、天壽を畢るに至つては、千萬悔いても及ばぬ次第、且我々同志の中にも、老年の者少からず、一日も早く謀らねば次第に人數も減るど申すが、天壽は天の命するまゝ、所詮人力の及ばぬ意地は立ても、亡君の御靈體はいに、謀拙く、萬一仕損じる事あつては、折角の志も徒らに相成り、銘々を忍び、唯一筋に亡君のお恨みを晴らす所存、然るに關東血氣の輩は天處尙くも大切な、君父の靈を報するの時人の和を待つ、内藏之助が心を知らず、備夫こ嘲り、性者と蔑み動かす時は、力を極めて押壓め、粗忽の舉動なきやうに、心添へ頗る見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」やうならば、拙者直に駆せ下り及ぶ夫等の虚實も爲と見極め、詳しく述べられうぞ、先に申述べた通り、若しも仇家木澤に匿れ、難を避ける尙同志と見掛けながら、心底疑はし果斷一決、聊か遲疑する所はない」から出た、神崎與五郎は熱心に聞き入る、與五郎のあらん限りは、歩行士の端に列し、常に軍書をもつて